

## 第3回津山市総合計画審議会 議事要旨

1 日 時 令和7年2月4日（火）

2 場 所 津山市役所2階 大会議室

3 参加委員

三村聡会長、出島誠之副会長、牛垣和弘委員、大谷公彦委員、岡田京子委員、神田將志委員、桐生和幸委員、日下和夫委員、坂手宏次委員、高山科子委員、竹花祐治委員、田淵雄一委員、原田昌樹委員、松岡裕司委員、松田欣也委員、松本静江委員、松本卓委員、矢山幸史委員

4 会議経過

(1) 開会

(2) 事務局報告

(i) 計画策定の進捗状況について

・・・【資料1】

(ii) 地区別懇談会での意見提言について

・・・【資料2】

(iii) 第1回つやま未来デザイン会議での意見提言について

・・・【資料3】

(iv) 10年後のまちとひとのミライ【※進行過程】

・・・【資料4】

(v) 津山市を支える産業振興

・・・【資料5】

(3) 基本構想策定のための意見交換

意見の概要は以下のとおり。

(【会】：会長 【副】：副会長 【委】：委員 【事】：事務局)

【会】津山市経済の分析や前回審議会の議論も踏まえ、皆様の意見をお願いしたい。

【委】少子高齢化に歯止めをかけるためには、特に女性の視点が重要。また、これまでの様々な意見を繋げ、集約させていくことも大切。住民意見ではインフラ整備を望む声もあり、まちの集約化など多様な視点で進めていく必要がある。

【委】医療・介護業界では、95歳以上の女性人口がピークを迎える2037年をどう乗り越えるか、を急務としている。様々な業界に影響することであり、さらには2037年以降も見据えていく必要がある。

【委】保育園は児童だけでなく、母親同士が繋がる最初の場として役割を担っている。あわせて、子どもの体調急変時に安心して預けられる病児保育も、女性の働きやすい環境づくりに重要である。

- 【委】バックキャストイング手法では、ゴールをいかにワクワクしたものにするかが重要。ゴールが明確になると、手元のやるべき事が整理される。18歳の崖は仕方がない部分もあるが、その後戻ってくるかどうかは、18歳までにどれだけ地域に関わり、愛着を持たせたかどうか。学生時代の思い出が関係人口の創出に繋がる。
- 【委】学生で経済が成り立っているカレッジタウンが海外にある。学生は地域経済に大きく影響しており、学生に選ばれる大学づくりは必要。転出すると、特に女性が戻らない傾向にあるが、美作大学生の8割が女性であることから、女性に選んでもらえる体制づくりが大切。リカレント・リスキリングにおいても、学部再編も視野に入れ、女性が地域に貢献し、イノベーションを起こせるような教育を進めたい。
- 【委】老人会では地域共生社会の構築に向け取り組んでいるが、会員の減少に悩んでいる。10年後を見据えることは大事だが、今できることをやっていくことも重要。
- 【委】地区別懇談会では、行政サービスを受取る立場からの意見が見られる中、「地域での支え合い活動」や「コミュニティの強化」という声が確認できる。自助、共助の視点を次期総合計画に採り入れていく必要がある。
- 【委】親族が遠くに住んでいる方や身寄りの無い方が急増し、そういった方の緊急事態には、民生委員が駆けつけ対応している。民生委員の救急手続等を簡略化する仕組みがあれば有難い。また、保育士・看護師不足の中、資格がなくても、元気な高齢者が地域を見守ることはできる。そうした体制づくりを進め、みんなで協力して安心安全な津山を作っていきたい。リカレント教育は高齢者の中でも求める声が多くある。県外には観光学専攻の大学もあり、特色のある学科が津山にあっても良い。
- 【会】ここまでの委員の話を受けて、事務局から何かあれば。
- 【事】人口減少の中で、いかに社会システムを維持していくかが重要。委員や地区別懇談会の意見でも多くあったように、愛育委員や民生委員、消防団、PTA等地域の担い手も働き手であるため、活動に参加することができていない。同じ人が複数の役割を担っている現状もあり、これらを解消したい。経済的負担の解消には、経済の付加価値を上げることが必要。また、女性が働きやすい環境づくりは、高齢男性の働きやすい・地域に参画しやすい環境づくりに繋がるものと考え、ワーキッシュアクト（仕事外の活動）を増やし、自助・共助の取組を増やしていきたい。
- 【副】PBL（課題解決学習）を通じて、子どもたちが地元企業や地域に参画し、課題解決に役立てていくことができれば良いが、受入側では、どうやって受け入れるかなど課題がある。子どもたちが地元企業を知らない地域に愛着がわからないので、受入側の意見を聞いてみたい。
- 【委】Z世代の発想は、大人にはない斬新さがあり、地域や企業には未認識の課題も多くある。学生には解決できる課題を見つけ出す力を育むよう指導している。
- 【会】学生の学びだけではなく、企業や地域に貢献できるようにならなければならない。
- 【委】「美作未来プロジェクト」では高校生と連携した取組を行っている。地元に戻るきっかけとして、地域での成功体験が重要と考え、年1回の発表の場を設け、地域への想いを残してもらおうようにしている。近年、銀行でも始めている課題解決ビジネスを通じ、地域にはこういった仕事があるのかしっかりと発信してほしい。児童生徒も対象とする「オープンファクトリー」では、この取組をきっかけに就業した若

者もある。産業界には地元の学生ともっと関りが持てる取組をしていただくことが、人手不足・人口流出の解消に繋がるものとする。

- 【副】PBLは縦割りの組織だとなかなか実現が難しいが、県民局など広域的に関係者と情報共有しながら進めることに価値がある。
- 【委】消防団も高齢化で辞める人が多く、若い人は入ってこない。出初式の簡略化等、負担軽減の取組を進めているが理解してもらえない。次期総合計画のまちづくりにおいて、消防団への協力要望があれば、しっかり伝えていくので教えてほしい。
- 【委】津山市の20歳を祝う会は、参加率80%以上と県内でも群を抜き、子どものアンケート結果も津山が好きとする回答率が高い。地域の祭りや人との繋がり、コミュニティスクールなどがきっかけになっている。これからも地域の店舗や職場見学等、地域と触れ合うキャリア教育を進め、自ら未来を拓く学生を育てていきたい。
- 【委】資料2で「整える」「高める」といった表現が見えるが、具体的にいつまでに行うなど、市の考えはあるか。
- 【事】資料2は、地区別懇談会で住民から出てきた意見であり、今後、各部局で具体的な施策に反映させていくため、現時点ではいつまでに行うといったものはない。
- 【委】地区別懇談会や分野別懇談会、つやま未来デザイン会議など、様々な視点で10年後について語り合うのはとても良い。一方、市幹部と住民目線の視点は異なる。住民のボトムアップも必要だが、市幹部のトップダウンの視点も必要ではないか。市幹部から10年後にこうなってほしいという提案が欲しい。
- 【事（副市長）】総合計画審議会の開催に当たり、市幹部で構成する策定委員会を開催し、意見を反映している。委員の提案については検討して参りたい。
- 【委】地域の祭りは担い手不足で壊滅状態にあり、未来に繋げていく状態ではない。中小企業も後継者不在で同じような状態にある。現状目線では、現在の延長線でしか思考が及ばないため、市全体の未来を見据えた視点が必要。
- 【委】中小企業庁の分析資料は、現状の課題から施策を考えている。市も国の施策を踏まえ考えていく必要がある。また、進出企業と地場企業では全く異なるので、方向性を一緒にせず、地場企業を大事にしてほしい。10年はあっという間で、更にその先を見据えた視点があっても良い。事業をしっかりと進めるには、企画立案、実行体制、チェック体制が重要。観光においては、交流人口を増やす必要がある。2年先には城泊事業でインバウンドのおもてなし体制が整うが、PRや住民に知らせていくことが弱いと感じている。良い取組をしているのだから、こういう都市を作っているということをしっかりと知らせないといけない。次期総合計画についてもしっかりと知らせ、一体感・夢を育んでいかなければならない。
- 【委】これまでの様々な意見をどのように計画に反映させていくかが重要。行政だけでは限界があり、行政・市民・事業者それぞれ役割を担うという視点で、一体感を作ってはどうか。行政は20年、30年先を見据えながら取り組んでもらいたい。
- 【委】人生100年時代と言われるが実際に動ける人は少ない。ノルディックスポーツやニュースポーツが各エリアでできるようになれば、地域が活性化するのではないか。そのためには、高齢者が移動するため公共交通も踏み込んで進めてほしい。
- 【委】林業では、20年で家具用材に使える早生樹の活用を研究中。通常の60年の樹木と

の組合せにより林業サイクルを下支えすると考えるが、生産面に加え、販路の確保や加工産業との連携も必要。また、林業をしながら耕作放棄地を活用し野菜を育てることも考えている。若者が農林業にチャレンジしていくため、わかりやすい支援金も必要。産業や農林業の重要性を若者にしっかりと伝えていきたい。

【会】ここまでの委員の話を受けて、事務局（教育長）から何かあれば。

【事（教育長）】自立できる子ども、自分で自分の進路が決められる子どもを育てていきたい。そのためには、本物に触れ、できるだけ身近な大人に触れ合っていくことが重要と考える。

【副】資料5において、情報通信業が市外に多く流出していることが印象に残った。

【事】放送局なども含まれているが、それを差し引いても報通信業は多く流出している。労働生産性を高めていくために情報通信業は必要であり、情報産業のクラスターを作っていくことも考える。

